

学習内容と到達目標

☞ 誰に何をプレゼントするかについて話せるようになる。物のデザインについて話せるようになる。

前半：[1. INTRODUCTION] ～ [5. PAIR WORK] (授受動詞の使い方)

後半：[6. VOCABULARY] ～ [8. PAIR WORK] (物の色やデザイン、サイズの表現方法)

指導のポイント

1. INTRODUCTION 第2課の復習。②で質問にスムーズに答えられなかったり、③で会話の内容が聞き取れなかった時は、第2課の入念な復習が必要。第2課を学習した時、「平仮名の読みに時間がかかりすぎる」などの理由で飛ばしたところは、この機会に改めて学習する。

2. SPEAKING ①では「リーさんは先月お姉さんに子供が生まれたので、デパートへ行ってベビー服を買い、お姉さんにプレゼントした」というストーリーが、片言ながら説明できればOK。②は次頁の「授業で使えるリソース」に紹介するウェブサイトなどを利用して日本の贈り物事情を勉強するのも楽しい。

3. LISTENING ①は語彙さえ拾えれば解答できるはず。②でスクリプトを読んで文型を確認した後、[2. SPEAKING] の②で話した内容を授受動詞を使って言い直させる。

4. FOCUS 授受動詞「もらう」はここで初めて登場。「山川さんにもらいます」ではなく「山川さんからもらいます」と言うこともできるが、補助動詞として使う時、「山川さんに手伝ってもらおう」とは言っても「山川さんから手伝ってもらおう」とは言えないので、「に」で統一しておいた方が無難。

5. PAIR WORK 「もらいました」の練習。練習自体は簡単なので、終わったら、学習者に自分がもらったプレゼントについて話させる。その際、もらったプレゼントの色やデザイン、大きさなどについても聞くようにすれば、後半に向けての準備になる。

6. VOCABULARY ①では、語彙の意味を確認するだけでなく、「チェックのハンカチ」や「花柄のかさ」などのように名詞の前に付けて練習する。②では「赤」「青」「白」「黒」「黄色」の5色は6課で学習済み。この5色以外に「茶色」もイ形容詞として使えることを確認しておく。

7. LISTENING ②のリスニングの課題が終わったら、教師が店員役になり、デパートでの買い物のロールプレイ練習をする。90～91 ページのスクリプトには実際の買い物で役に立つ(未習の)表現が数多く出てくるが、これらを必ずしも覚えさせる必要はないし、このとおり話させる必要もない。これはあくまでも「モデル」。余裕のある学習者は役に立つ表現を拾って使えばいいが、余裕のない学習者はこの課の到達目標である「誰にあげるプレゼントで、どんな色やデザインのものがほしいか」さえ伝えられればOK。店員が使う丁寧な日本語も意味を類推するなどして、なんとかコミュニケーションが成り立てば十分。

8. PAIR WORK

②ではファッション誌やデパートのカタログなどを見ながら話させると、現実感が出てよい。

活動例

①贈り物の習慣

☞ [2. SPEAKING] の②を学習した後で実施。『J.BRIDGE (初中級版)』の第3課でも取り上げているテーマだが、国や地域によって様々な贈り物の習慣があり、贈り物に対する考え方も違うようである。例えば、中国では置き時計をプレゼントしてはいけないらしい。中国語の「置き時計」を意味する語は「終わり」を意味する語と発音が同じであるため、縁起が悪いと考えられているとのこと。また、香港には日本と同じお年玉をあげる習慣があるが、日本では子供にあげるのに対し、香港ではマンションの管理人さんや職場の同僚など、日頃お世話になっている人にもあげるようだ。このような贈り物の習慣についてそれぞれの出身国（出身地）の事情を話させるのもいいし、デパートのカタログなどを使って、日本ではお中元やお歳暮にどのようなものを贈るのかを調べさせるのもよい。

授業で使えるリソース

☞ Yahoo!や Google などのポータルサイトで「プレゼント・調査・ランキング」などとキーワード入力をする、日本人のプレゼントの実態に関する資料をかなりたくさん見つけられる。筆者が調べた中では「カイロスの贈り物」というサイトが一番包括的で、好まれる誕生日プレゼントのランキングには、「女性が、自分に片思いをしている男性からの誕生日プレゼントとして期待している物のランキング」などというものまであって、なかなかおもしろい。